

さまざまな差別と向き合う 第16回人権啓発研究集会

第16回和歌山・人権啓発研究集会を1月26日、プラザホープでひらき、行政、企業、宗教者、支部員など141人が参加した。

第16回 和歌山・人権啓発



意義ある1日をと
あいさつする野口理事長

主催者を代表して野口道彦・理事長は「同対審」答申50年、『部落地名総鑑』40年という節目をむかえ、あらたな局面をむかえる。4月から「障害者差別

法制定の必要性、訴え

第30回人権啓発研究集会

第30回人権啓発研究集会を2月4日、5日グランキューブ大阪でひらかれ和歌山から15人が参加した。

大阪の6つの部落で構成された和太鼓ユニット「絆」による力強い演奏で集会の幕をあげた。

「同対審」答申50年より「部落地名総鑑」40年を考へる」として、大きな論点は部落差別の現実があることをハッキリさせたこと。研究集会は、奥田均・近畿大学人権問題研究所教授

「ハンドマリー」による手話の歌と話しが披露された。2016年2月6日、ダ

女性の支援で、政治活動を

ふじ本まり子女性の集い

組織内候補のふじ本まり子さんの「女性のつどい」の歌と話しが披露された。2016年2月6日、ダ



尾花市長とトークするふじ本まり子さん

の課題解決にむけた内容について話された。ハンドマリーから、全国的にも少ない視聴覚障害者のための老人ホームを和歌山に建設するための主旨が説明され、カンパ活動がおこなわれた。

1

昨年11月に東京で人権フォーラムが開催され、和歌山県の仁坂吉伸知事をはじめ、県内の全市町村、県選出の国会議員、市町村議員、政党、企業、宗教関係者など各界各層の参加者のもと、オール和歌山で人権の法制度を求める東京集會が開催された。私たちの部落解放同盟和歌山県連からも多くの代表者が参加してきた。その後、この集會を成功させてきた実行委員会ととりわけ自由民主党県連幹事長と何度か打合せをし、「法」制度制定にむけ和歌山県としてどのような取り組みを推進していくのかが議論となっている。

主張 人権の法制定 実現にむけ、 闘いをすすめよう！

年9月議会において「企業・団体等における部落差別を撤廃するための法整備」を早急に求める意見書が採択され、法制度実現に向けた気運が高まっているといえる。しかしながら、県内の状況を見ると、現在の法体系では対処できない悪質な

3

全国の被差別部落を調査した『全国部落調査』が、40年前に発覚した『部落地名総鑑』の原典とされているが、その調査資料の復刻版が販売されようとしている。今から40年前に『部落地名総鑑』差別事件が発覚し、大きな社会問題となった。明らかにこの『部落地名総鑑』は差別を助長する

和歌山県においては昨

2

差別事件やインターネットを悪用した差別書き込み事件が多発している。和歌山県では2002年に『和歌山県人権尊重の社会づくり条例』が制定されているが、この条例をさらに具体化させていくことも重要で

悪質な差別図書であるとき差別的にもかわならず、誰ひとり処罰されることなく、当時から差別が野放しになっている。「同和対策審議会」答申には、「同和」問題の解決は国及び地方公共団体の責務であり、同時に国民的課題である。部落差別という社会悪をなくしていくために、国民不断の努力が必要、そしてこの問題を解決していくためには、地区を抜本的に改善していく事業法の制定と差別を禁止する法律、そして差別に対する救済法の制定が急務の課題であると書かれている。人権フォーラムの成果をさらに推し進め、人権の法制度実現にむけ、闘いをすすめていこう。

第30回人権啓発研究集会



和太鼓ユニット「絆」の演奏

文化の窓

「アサッテの人」

講談社、2007年7月21日、ISBN978-4-062142144

幼いころからの吃音による疎外感から、言葉を嫌悪する人生と結婚し、死別した末、行方をくらました叔父。叔父が求めた生き方は「アサッテ」であった。「ポムパ」が意味するは



アサッテの人

諏訪哲史

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073-473-2301